

## 世界の中の日本人

東北大学医師会会長 下川 宏明



カズオ・イシグロの2017年のノーベル文学賞受賞を受けて、代表作とされる「浮世の画家」「日の名残り」「わたしを離さないで」(執筆順)を読みました。イシグロは、私と同じ1954

年の長崎の生まれで、5歳の時、海洋学者である父親が英国政府に招かれたため、両親とひとりの姉と共に渡英します。最初は2～3年の予定であった滞在が延び、結局、両親とともに英国に定住することになり、1983年に英国の国籍を取得し、1986年にスコットランド出身の英国人女性と結婚します。家庭では日本語を話すという環境の中で、日本とイギリスの両方の文化を背景として育ち、ケント大学で英文学を、イースト・アングリア大学で創作を学び、一時はロック・ミュージシャンを夢見た時期もあったようですが、最終的に作家として出発しています。

3作とも、主人公が語り手になり、過去の出来事に関する思い出話として進行していきます。主人公や時代背景は3作とも異なりますが(「浮世の画家」では引退した日本人画家と戦前・戦中・戦後の日本、「日の名残り」では元執事と第2次世界大戦後のイギリス、「わたしを離さないで」ではクローン人間世界での介護人と90年代のイギリス)、いずれも、過去の思い出話を通じて、現在の自分のあり方に通じる深い洞察が感じられます。イシグロは、自分自身の中の日本とイギリスとのバランスの中で、人間とは何か、人生とは何かを、肯定的で人に優しい眼差しで洞察しています。こうした健全な自尊心をさりげなく展開させる点が人気の秘密かもしれません。

私は、仕事柄、欧米を中心に出張する機会が多く、また、毎日、世界の友人・知人たちと主としてメールで意見や情報を交換しています。また、海外の学術誌数誌の編集にも関与しており、この

仕事も毎日行っています。私が米国留学をしていた80年代の半ばは、日本とのやりとりはファックスが中心でしたが、現在の通信技術の進歩には目を見張るものがあります。こうした世界がますますグローバル化する中で、我々日本人も頑張っている訳ですが、世界を相手に仕事をしていくために日本人に必要な点をいくつか感じています。

第1に、日本や日本人は、外国や外国人に対して自己主張すべきところは自己主張すべきだと思います。「あうんの呼吸」は海外では全く通じないと理解すべきで、むしろ、きちんとした自己主張をすることが外国人との意志疎通には重要で好感を持たれます。会話や議論の中できちんとした自分の意見を言わないことは、外国人にとっては、そのテーマを理解しているのかしていないのかも分からず、気持ち悪がられる可能性があります。第2に、英語が国際語になっている現在、やはり、日本人はもっと英語・英会話を勉強すべきだと思います。話す・聞くの英会話に加えて、読み・書きも重要で、普段からの取り組みが必要になります。さらに重要なことは、母国語である日本語をもっと深くきちんと身につけることです。日本語をきちんと身につけて初めて外国語も上達すると思います。カズオ・イシグロは、日本語の多くは忘れたとのことですが(生い立ちから仕方のないことですが)、純粋に日本人のDNAを持つ作家が英語の小説で世界的に評価されてノーベル文学賞を受賞したことは、日本人としての誇りです。第3に、外国人の友人・知人を多く持つことです。私は、毎日、米国や欧州の友人たちと交流しながら仕事をしていますが、本当に楽しく、これこそ真の国際交流ではないかと思っています。

私の分野でも、外国からの日本や日本人への評価は高いことを感じます。資源の少ない日本は、自らのレベルアップに努力するとともに、世界に多くの友人を作り、国際交流や国際平和に積極的に貢献していく必要があると思います。